

## I 研究主題と副題

基礎的・基本的な内容の習熟・定着を図り、学力向上を目指す方策の研究

副題～外国語活動を円滑に実施するための研究を中心に～

## II 主題設定の理由

21世紀は、「知識基盤社会」の時代であり、新しい知識・情報・技術は、政治・経済・文化をはじめ、あらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性が増すとされている。同時に、世の中は、国際化がより一層進み世界はグローバル化している。そして、100年に1度の不況とも言われる現代は、社会の変化が非常に激しい時代となっている。このような時代を生き抜くためには、現行学習指導要領の「生きる力」がますます重要となってくる。自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、的確に判断する力である「生きる力」を支えるものとして、「基礎学力の定着」と「豊かな表現力・コミュニケーション能力の育成」は特に重要である。特に外国語活動に関しては、今回の学習指導要領の改訂（平成23年度より完全実施）で、5・6年生に位置付けられたので、本格的な実施に向けて準備が必要である。

延岡市は水と緑の豊かな自然、城下町としての歴史、多彩な産業などが織りなすまちである。市は、これらの特色や資源を生かし、あらゆる教育の場において、「のべおかの未来をひらく人づくり」を教育の基本方針とし、「たくましいからだ」「豊かな心」「すぐれた知性」をそなえ、郷土に対する誇りと国際感覚にあふれ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに調和のとれた人間の育成をめざしている。このような中、延岡市教育委員会では「21世紀を生きる人づくりのために」という具体的な指針を示し、「基礎的・基本的な学習の定着を図り、自ら学び自ら考える力をはぐくむ教育」の推進に努めているところである。

特に、平成15年度から「学力向上支援事業」として、延岡市学校教育研修所常任研究員による研究が進められている。そこでは、児童生徒に基礎的・基本的な学習内容の習熟と定着を図るため、算数・数学科において「パワーアッププリント」を作成し活用を図っている。また、18年度からは計算力実態調査を行っている。それらに加え、平成16年度は国語科において「音読文集」の作成にも取り組み、19年度から「音読コンクール」を実施している。「基礎・基本の定着」という観点から、計算力と音読に関して、研究を継続しているところである。

さらに、延岡市では中学校進学時に外国語活動の習熟度をある程度そろえたいという観点から、平成23年度の学習指導要領の完全実施に向け、22年度からすべての小学校で35時間の外国語活動を実施することとしている。しかし、学校によっては「外国語活動の年間指導計画」が未整備のところもあり、また、外国語活動の指導に不安を抱く現場の教師も多い。そこで、外国語活動のスムーズな実施に向けて、年間指導計画の作成や指導方法の工夫改善等、外国語活動の研究を推進するために本主題を設定した。

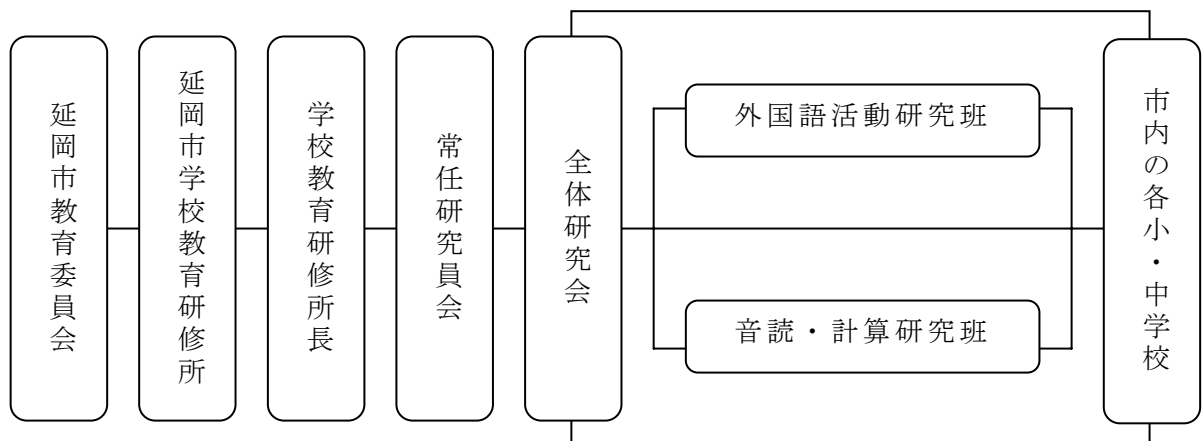
### Ⅲ 研究の目標

- 外国語活動の年間指導計画の作成や授業モデルを構築することで，平成22年度からの外国語活動を円滑に実施できるようにする。
- 音読コンクール（発表会）と計算力実態調査を継続することで，延岡市の児童生徒の学力を向上させる。

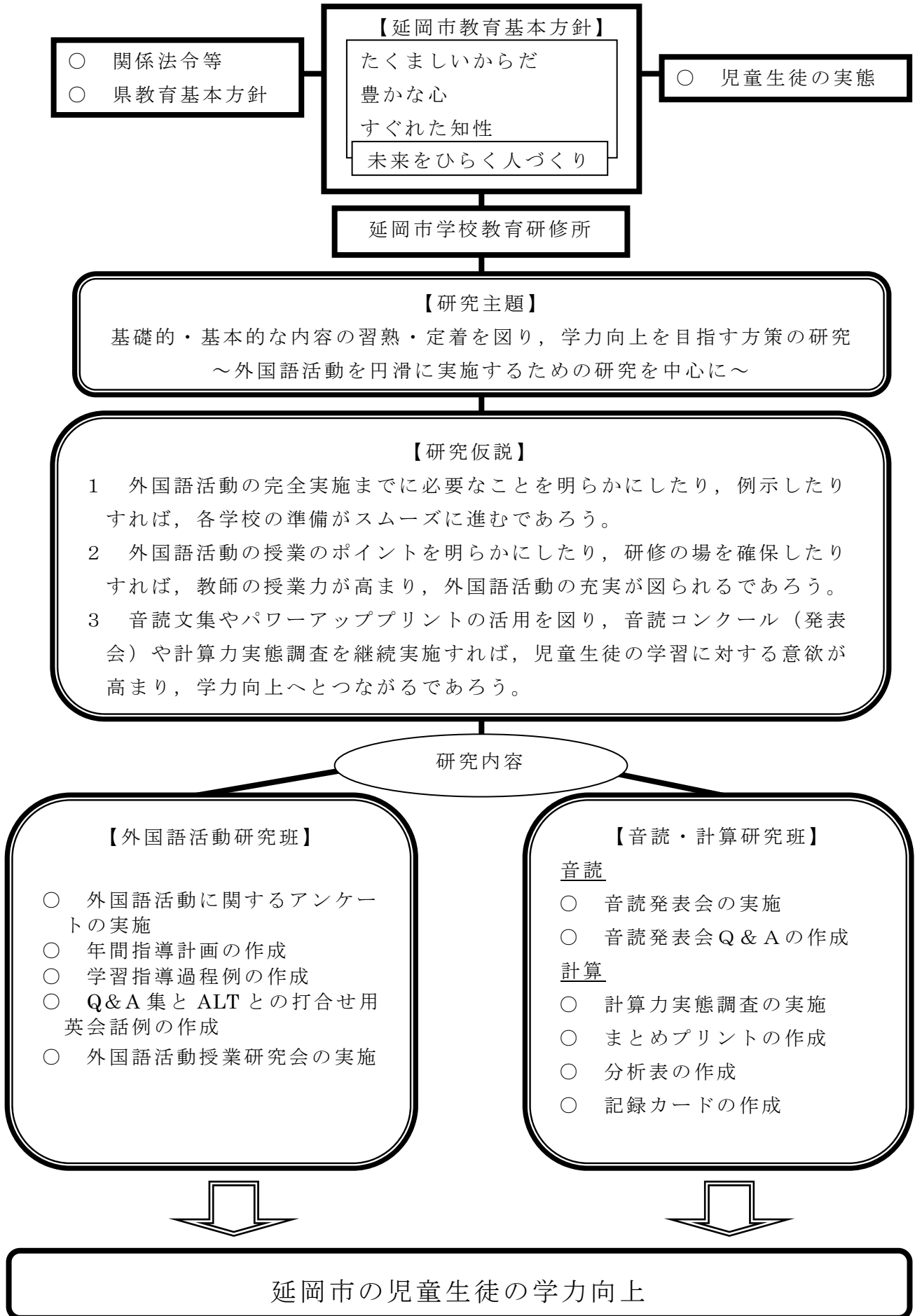
### Ⅳ 研究の仮説

- 1 外国語活動の完全実施までに必要なことを明らかにしたり，例示したりすれば，各学校の準備がスムーズに進むであろう。
- 2 外国語活動の授業のポイントを明らかにしたり，研修の場を確保したりすれば，教師の授業力が高まり，外国語活動の充実が図られるであろう。
- 3 音読文集やパワーアッププリントの活用を図り，音読コンクール（発表会）や計算力実態調査を継続実施すれば，児童生徒の学習に対する意欲が高まり，学力向上へとつながるであろう。

### Ⅴ 研究の組織



VI 研究の全体構想



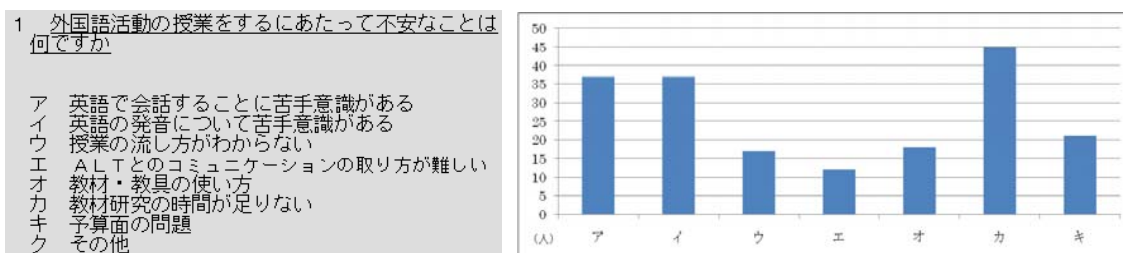
## VII 研究内容

### 1 外国語活動研究

#### (1) 外国語活動に関するアンケートの実施

研究を進めるにあたって、学校の実態や外国語活動を実施する上での教師の不安や悩みを把握するため、延岡市内30校の5・6年担任と外国語活動主任を対象にアンケートを行った。結果は以下の通りである。(複数回答可)

##### ア アンケート調査項目1「外国語活動の授業をするにあたって不安なことは何ですか」

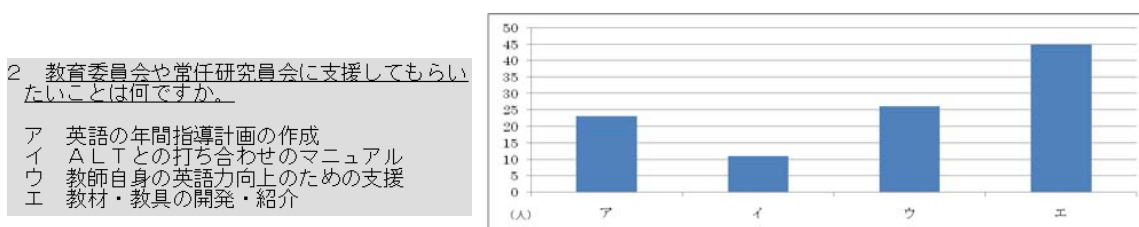


【アンケート調査項目1 (平成21年7月実施)】

最も多かった不安や悩みは、カの「教材研究の時間が足りない」だった。続いて、アの「英語で会話することに苦手意識がある」、イの「英語の発音について苦手意識がある」が順に挙げられた。

各学校、教材を研究する時間の確保が十分にできない現状や、教師自身が英会話能力や発音などのスキル面において不安を感じていることが分かった。

##### イ アンケート調査項目2「教育委員会や常任研究員会に支援してもらいたいことは何ですか」



【アンケート調査項目2 (平成21年7月実施)】

教材・教具の開発や教師自身の英語力向上のための支援が最も必要であることが分かった。また、平成22年度からの円滑な実施に向け、外国語活動の年間指導計画やA L Tとの打ち合わせマニュアルの作成も必要としていることが分かった。

このアンケート結果を基に研究の方針を立て、検証を進めていくことにした。

#### (2) 年間指導計画の作成

教材・教具の開発や紹介を効率よく進めるためには、まずは基になる計画が必要になる。そこで本研究員会では、まず、延岡市版年間指導計画を作成した。作成に当たっては、文部科学省が作成した英語ノート資料(ピンクと緑の冊子)を参考にした。本計画の特徴は以下の点である。

本計画作成に当たっては、下記の例のように、指導時期を明確に示すこと、児童に身近な教材を取り上げることに留意した。

外国語活動年間指導計画1 延岡市版(3.5時間)					外国語活動年間指導計画2 延岡市版(3.5時間)					
指導時期	単元 Lesson	タイトル Title	指導内容							
			第1時	第2時	第3時	第4時				
5月	1	世界の「こんにちは」を知ろう	・世界には様々な挨拶があることを知る。	・挨拶のマナーを知り、積極的に挨拶し、自分の名前を言う。	・友だちと挨拶をし、作られた名刺紙を交換する。					
6月	2	ジェスチャーをしよう	・様々な感情や様子を表す語を知り、そのジェスチャーをする。	・ジェスチャーの大切さを知り、ジェスチャーを付けて思いを伝える。	・ジェスチャーを付けて、進んで相手に挨拶する。	・感情や様子を、ジェスチャーを付けて表現し、伝える。				

指導予定時期の明記 …年間を見通して計画的に指導可能  
 → 新たな教材「地域素材」の活用…児童にとってより身近な教材になる

【年間指導計画の一部】

(3) 学習指導過程例の作成

年間指導計画に合わせて、学習指導過程の例もA4サイズで1枚ずつの資料にまとめた。英語ノート1・2各35時間分、合わせて70時間分作成した。本指導過程例の作成により、以下のような効果が期待できると考える。

ア 興味・関心を高める工夫

地域素材を活用することで、児童にとって、より親しみやすい学習の展開が期待できる。

イ 教材研究の際の参考

一単位時間の学習の流れや指導上の留意点を簡潔にまとめたことにより、指導者にとって、より分かりやすいものとなった。教材研究の資料の一つとして役立つものと考えられる。

ウ 各校で編集可能

この学習指導過程例は、各学校にデータで提供する予定である。したがって、各校の実態に合わせて自由に編集・修正して活用することも可能である。

単元名	Lesson1 Hello, How are you? (第1時)これは何かな	指導時期	1 2月
目標	英語と日本語との違いを通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。		

学習指導過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 ◎評価	資料・道具
導入 ①	1 挨拶をする。 Hello. How are you? I'm fine, O.K., etc. 【Activity】 2 部分絵カードを見て、それが何かを予想して答える。英語ノート p.44 p.45の水族館絵紙大板を見て、その部分が何を表しているか答える。 3 水族館の絵を見て、どこに上のものがあるか答える。	● 何回かあいさつを繰り返して、授業への意欲付けを図る。 ● 指導者は、あたかも教室が水族館で、児童が水族館に遠足に来ているかのように部分絵カードを見せながら、質問する。このように劇化立てにすることで、より児童に親しみやすくなることもできる。 ● 当然、これらの絵の中には、児童が知らない単語も含まれている。そこで、児童は日本語で答えてもよく、それを指導者が英語に直し、紹介する。 ● 指導者は、単にそれが何かを尋ねただけではなく、水族館の絵をもとに、どんな魚がいるか、何人子どもがいるか、この次の人は誰だと思えるかなどを様々な質問を投げかけ、児童とやり取りをするようにする。	英語ノート 絵カード 水族館大板絵紙大板
展開 ②	4 漢字を見て、それが水族館のどの生き物かを考え、読み方を確認する。	● 英語ノート p.46の漢字をそのまま見せず何字のものか、それらを書いた漢字カードを見せて尋ねることにし、どの漢字も声上げて、ともに考えさせることができる。	漢字カード

展開 ③	5 答えを英語ノート p.46の表の中に書く。また、それぞれの数を表に書く。 【Let's chant】 6 チャンツを言う。	● それぞれの2つ目の漢字「星」、「老」、「月」に注目させることにより、これらをヒントに英語ノート p.44 p.45 のどの生き物が考えさせる。この部分に児童自らが気付く。漢字の表し方の面白さを理解できるようにする。 ◎ 漢字の読み方を考える活動を通して、漢字の成り立ちの面白さに気付く。 <行動観察> ● 指導者は、絵カードを見せ、手拍子でリズムを付けながらチャンツを言うことにより、児童に英語のリズムを慣れさせるようにする。 ● チャンツを紹介する際に、指導者は、隣同士と応答文を言う側に、絵カードの一部だけを隣同士で言う側に指示する。そうすることにより、隣同士「What's this?」の意味がより児童に分かるようにする。応答文の側は、答える際に、それらの実物を見せるようにする。	部分絵カード CD
展開 ④	7 挨拶をする。 Goodbye. See you.	● 振り向きカードを振り、児童ががんばりを認め、満足感を持たせて学習を終える。 ● 児童の英語やジェスチャー等を褒めようとする態度についてよかったところを言う。	振り向きカード

【学習指導過程例の一部】

また、本指導過程例は、「導入」・「展開」・「終末」の三つの段階を基に構成されており、各段階において以下のようなアクティビティ（学習活動）を適切な学習段階に加えながら指導することで、より効果的な指導が可能となるように工夫した。

アクティビティ例	
導入	「Hello」「how are you?」「I'm O.K.」などの簡単なあいさつや「November 17 <sup>th</sup> Thursday」「How is the weather today?」など、簡単な日常会話、歌やチャンツ等を取り入れることで、子どもたちが英語や様々な言語を少しでも抵抗無く使える環境作りを行うことが大切である。また、単元始めの学習の場合は、その単元の導入を行ったり、これまでに学習してきた英語表現やジェスチャー等を復習したりすることができる。もちろん、その時間の学習の見通しを持たせる時間にもなる。
展開	<p>教材CDで発音を聞いたり、キーワードゲームなどのアクティビティを取り入れたることにより、児童はコミュニケーション活動を行う上で必要な英語表現やジェスチャー等に触れることができる。これにより、単元の第3時や第4時には、児童同士のコミュニケーション活動がスムーズに行えるようになると思われる。英語ノートの流れでは、第1時・第2時で、その単元の目標の達成に必要な英語表現やジェスチャー等を知ったり、ある程度使えるようにしたりするアクティビティがメインになる。そして、それを生かして第3時・第4時には、児童同士のコミュニケーション活動の機会を提供するという単元指導の流れになっている。</p> <p>例えば、英語ノートIのLesson5では「買い物をする」ということが最終のコミュニケーション活動となっている。そのために、第1時には、「チマ・チョコリ」など世界の服を知ったり、服の色や種類の英語表現を音を通して知ったり、自分の好きな服を考えてみたりする活動がある。第2時には、買い物をする際に必要な英語表現を知り、第3時・第4時で児童が自信を持って、積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、CD教材を活用してお客と店員の言い方を知り、練習をしてみる活動がある。また、その際に大切にしたい、視線を合わせるアイ・コンタクトや笑顔、自分の思いをはっきりと伝えるためにジェスチャーを使うことなど、表情や態度面についても考えさせる機会がある。これらの点を大切に、日頃から指導しておくことにより、コミュニケーション能力の素地を少しずつ養うことができると考える。</p>
終末	その時間の学習や単元全体の振り返りを行ったり、次の時間に向けての意欲付けを行ったりする活動を取り入れる。振り返りを行う上で、振り返りカード等の教材の活用も有効だと考える。

なお、一単元で考えると、外国語活動の目標を達成するためには、下の表にある三つのアクティビティを適切に取り入れながら授業を構成していくことが大切である。

<p><b>資料Ⅴ 外国語活動の目標に近づくための三つのアクティビティ（学習活動）</b></p> <p>① その単元のタスク（課題）を解決するために必要な英語表現やジェスチャー等を知るためのアクティビティ  (例) 教師のデモンストレーション、付属CD（文部科学省、市販教材等）で英語表現や英単語を知る、など  ⇒英語ノートでは、単元の第1時に多く見られる。</p> <p>② 児童がコミュニケーションを取れるようにするための練習アクティビティ  (例) キーワードゲーム、指差しゲーム、など  ⇒英語ノートでは、単元の第2時（第3時）に多く見られる。</p> <p>③ 児童同士が積極的にコミュニケーションを図るアクティビティ  (例) 買い物ゲーム、クイズ大会、など  ⇒英語ノートでは、単元の第3時・第4時に多く見られる。</p>
---

(4) Q & A集とALTとの打合せ用英会話例の作成

外国語活動を実施する上で感じている不安や悩みを、少しでも解消してもらえるように、「Q & A集」を作成した。また、ALTとの打ち合わせの際に教師自身が積極的に簡単な日常英会話を使い、授業の打ち合わせ等ができるよう、「ALTとの打ち合わせ用英会話例」を作成した。

(5) 外国語活動授業研究会の実施

延岡市立旭小学校の協力を得て、平成21年11月17日に授業研究会を実施した。これは、教師の指導力向上はもちろん、アンケート調査でも挙がっていた教材研究の手助けや教材・教具の開発を進めるためである。

対象学年：第6学年

単元名：自分の一日を紹介しよう（英語ノート2 Lesson7）

（常任委員会が作成した学習指導過程例を参考に実施）

導入段階では、地域素材を取り入れた。その素材は、城山の鐘守さんや、給食でいつもお世話になっているパン屋の一日の生活である。このように児童にとって身近な教材を取り入れることにより、児童の興味や関心が高まった。このことが、展開や終末段階で、Happy time（一日の中で最も楽しい時間）を考え、友だちに積極的に伝える活動につながった。

また、授業研究会後の協議では、文部科学省のホームページに提示してある英語ノート用の教材を旭小から紹介してもらうなど、教材・教具の活用の促進も図ることができた。

研修後のアンケート調査や意見集約の結果、本授業研究会を実施することにより、参加した教師の授業力向上や不安や悩みの解消が進んだようである。また参加した教師が研修の成果を各校に持ち帰り、校内研修を行ったり、指導へ生かしたりする上で大変意義のあるものになった。



【外国語活動授業研究会の様子】

## 2 音読研究

### (1) 研究の背景

延岡市学校教育研修所では、平成16年度に「音読文集」を作成した。音読文集とは、子どもたちに知ってもらいたい名文や、読んでもらいたい延岡の昔話や方言、各学校の校歌などを集め、冊子化したものである。平成19年度から小学校1年生の全児童に音読文集を配付したり、「音読文集活用ファイル」を市内の小・中学校の各学年に配付したりし、活用促進を図ってきた。

これを受けて、今年度も引き続き音読文集を活用した「音読発表会」を開催することで音読文集の更なる活用が図られるのではないかと考えた。

### (2) 研究の実際

#### ア 昨年度の研究内容の確認

音読文集活用という趣旨に基づき、今年度は「コンクール」ではなく「音読発表会」とし、児童の取組みを賞賛する場としての位置づけで取り組むことにした。

#### イ 研究実践

##### (ア) 目的

- a 音読文集を活用した音読活動で、育まれてきた児童の表現力を音読発表会で賞賛することにより、児童の自信へとつなげる。
- b 音読発表会を通して、児童の音読への関心や意欲を高め、日常の音読活動の活性化へとつなげる。

##### (イ) 対象

延岡市内すべての小学校が参加する。参加する児童は、各校あたり1組(1～3名)とする。

##### (ウ) 手立て

##### a 「音読発表会Q&A」の作成

昨年度行われた「音読コンクール」後のアンケート意見を基に、本年度行われる「音読発表会」では、発表会についての疑問や質問をQ&Aの方式にし、各学校に配付した。これによって、各学校で共通理解が図れるようにした。

##### b 音読発表会の様子をDVD化

各学校が発表会当日まで練習した成果を形として残すために、当日の映像をDVD化して配付することにした。これによって、発表会に参加していない他の児童も各学校の音読を聞くことができ、更なる音読活動の啓発になるのではないかと考えた。

##### c 外部講師の活用

音読発表会に参加した児童が、よりよい音読に触れてもらう場を提供しようということで、今年度はUMKアナウンサーの高橋巨典氏による読み聞かせをお願いした。音読発表会当日、プログラムの最後に模範音読として読んでもらうことにした。

#### ウ 発表会について

12月5日(土)に予定していた音読発表会は、新型インフルエンザの流行に伴い、今年度は中止とした。

しかし、それまでに各学校で選考会を開き、代表者を定めるまでは行えたので、音読活動の活性化は図れたものとする。なお、代表になっていた児童については、各学校で発表の場を設け、賞状を渡してもらうようにした。



### 3 計算研究

#### (1) 研究の背景

平成20年3月に学習指導要領が改訂され、そのポイントの一つとして、基礎的・基本的な知識・技能の習得が掲げられた。教育内容の改善点としては、理数教育の充実も挙げられている。その中で具体的事項として「知識・技能の定着のための繰り返し学習」や、「学び直しの機会」を設定することが重視されている。

これまで、延岡市学校教育研修所では、児童生徒の基礎的な計算力の向上を目的とし、平成15年度にパワーアッププリントの作成を行い、そのプリントを活用した計算力実態調査を平成18年度より実施してきた。昨年度の取組をより充実させながら、本年度はPDCAサイクルを意識した研究を実践した。

#### (2) 研究の実際

##### ア 昨年度の研究内容の確認

実態調査を行うことに関して、計算力の変容をどのように示すかが課題として挙げられた。

##### イ 本年度の研究内容の検討、重点実践項目の検討

アを受け、次の2点を重点的実践事項として取り組んだ。

(ア) 年2回の計算力実態調査の実施 (イ) 計算力実態調査の分析及び分析表の配布

##### ウ 研究実践

右記のような計画を立て、取り組んだ。

(ア) 年2回の計算力実態調査の実施

##### a 目的

- 児童生徒の計算力の定着を図り、計算への関心や意欲を高め、日常の算数・数学科学習の活性化を図る。
- 計算力向上への変容が見られたか、検証する。

##### b 考察

- 1回目の計算力実態調査の結果を受け、弱点補強を含んだまとめプリントに取り組むことで、授業の活性化を図ることができ、児童生徒が意欲を持ち、2回目の計算力実態調査に取り組むことができた。
- 難易度を揃えることが難しく、比較しにくいですが、9学年中5学年で平均点の向上が見られ、11、255名中満点者が、3、514名で前回より22%増加し、計算力向上につながれたと考えられる。
- 計算力実態調査実施の期間を更に長くすることによって、計算力の定着が図られ、変容が見られる。
- 計算力実態調査の実施が、授業時数の確保を困難にする可能性がある。

(イ) 計算力実態調査の分析及び分析表の配布

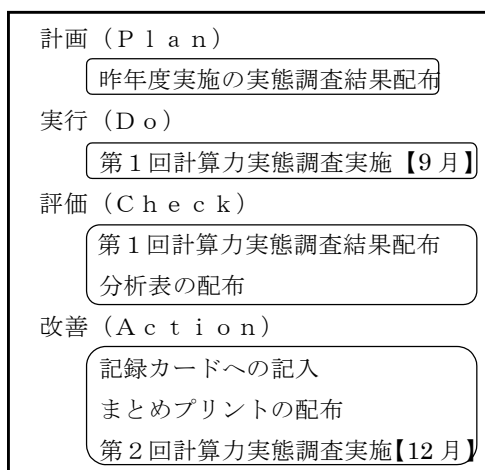
- a 目的 計算力実態調査から伺える児童生徒のつまずきのポイントを示し、まとめプリントの活用や授業実践に生かす。

中学校第3学年			
番号	問題	誤答例	誤答例からの考察
(6)	$18xy^2 + (-3y) \times 2xy$	$12x^2y^2, -3$	符号の間違い。 $18xy^2$ を $(-3y) \times 2xy$ で割っている。
(14)	$(3x - y)(4x + 3y - 2)$ の展開	$12x^2 + 5x - 6x - 3y^2 - 2y + 6x + 5xy - 3y^2 + 2y$	同類項を正確に計算できていない。

【実際の分析表】

##### b 考察

- 小規模校では得られない誤答データを把握し、それを活用することによって生徒のつまずき箇所を以後の指導に役立てられた。
- すべての問題について、より細かく分析を行えば、さらにきめ細やかな指導につなげることができると思われる。



## VIII 成果と課題

### (1) 研究の成果

#### ア 外国語活動研究班

- 学習指導過程例を作成した際、各時間の指導内容を1枚にまとめたことで見やすくなり、活用が図りやすくなった。
- 年間指導計画をデジタル化し、各学校に配付することによって、各学校が年間指導計画を作成する際に活用できるようにした。
- 地域素材を取り入れたことによって、児童が教材を身近に感じ、興味をもって学習に取り組むことができた。

#### イ 音読・計算研究班

- 昨年度の反省をもとに「音読発表会Q&A」を作成し、各学校に配付したことにより、音読発表会の共通理解を深めることができた。
- 各校独自の計算力実態調査対策プリントを作成する等、教師側の意欲を高めることができ、さらに分析表を作成したことで、児童生徒の細かなつまづきを確認し、指導に役立てることができた。
- 計算力実態調査では、PDCAサイクルを意識して取り組むことができた。また、そのことで、児童生徒が目標設定を行い、毎月計画的に学習することで計算力を身に付け、平均点の向上や、満点者の増加につなげることができた。

### (2) 研究の課題

#### ア 外国語活動研究班

- 外国語活動の授業を円滑に行うためにも、外国語活動の教材を充実させることが必要であり、さらなる教材・教具の開発が必要である。

#### イ 音読・計算研究班

- 音読文集の更なる活用法を研究し、学力向上につなげていく必要がある。
- 計算力実態調査では、出題の意図を示したうえで、より細かな分析表等を作成し、児童生徒の実態を更に細かく行い、指導に活かしていく必要がある。
- 計算力実態調査を9月と12月に実施したが、各学校の行事や調査実施後の復習等を考えると、実施時期を再検討する必要がある。

### ○ 研究同人

延岡市学校教育研修所	所 長	宮崎 弘尚
延岡市教育委員会	指導主事	平田 哲
<b>【外国語活動研究班】</b>		
津曲康夫（東小学校）	平岡正臣（旭小学校）	甲斐尚和（恒富小学校）
原田建一（西小学校）	森 年樹（緑ヶ丘小学校）	田中匡浩（緑ヶ丘小学校）
鮫島雅朋（一ヶ岡小学校）	佐藤基樹（東海東小学校）	
肥田木真規子（岡富中学校）	児島健一（東海中学校）	
<b>【音読・計算研究班】</b>		
郡司大円（熊野江中学校）	黒木宏和（南方小学校）	鬼塚陽子（岡富小学校）
春園真由美（南小学校）	錦織謙一（東海小学校）	甲斐むつみ（南中学校）